令和7年度　施設自己評価

園名

評価日　令和8年3月31日

評価基準

A(大変優れている)：施設全体で高い意識を持って取り組み、素晴らしい成果や独自の工夫が見られる状態
B(適切である)：計画通りにしっかりと実施されており、子どもたちが安心して過ごせる安定した状態
C(改善が必要)：取り組んではいるものの、さらにより良くしていくための課題や見直す点がある状態
D(早急な対応が必要)：基準に達しておらず、子どもたちのためにより良い環境へ向けた早急な対応や改善が必要な状態

No	項目	内容	評価(A/B/C/D)	意見・改善案
1	園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている。	A	全体的な計画に基づき、特に乳児クラスは個々の配慮を重視し、幼児クラスは教育的な観点を取り入れ、子どもの発達状況を確認しながら指導計画を作成できています 。日々の保育に活かせるように、会議等で話し合い、振り返りをしながら改善にも取り組んでいます。
2		全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者等が持っている。	A	
3		指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	A	
4		子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態などについて職員間で話し合う機会を設けている。	A	
5	子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している。	A	職員は、人権擁護や個人情報に対する理解を深め、そのルールに沿って保育しています。お互いに意識しあい、お子さんを一人の人格として尊ように心がけています。おその意識がぶれないように、今後も園内での意見交換や研修を行お子さんたちが安心して過ごせる環境づくりに努めます。
6		個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している。	A	
7		保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	A	
8		子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している(3歳児以上)。	A	
9		保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない。	A	
10	愛着形成	子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている(0･1･2歳児)。	A	お子さんが自信をもって活動し、自発的な意見も受け止める環境を尊重し、職員がお子さんの安定を考慮しかかわることを重視しています。園全体で見守ることのできる環境つくりに務めています。
11		保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	A	
12		子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている。	A	
13	環境	各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	B	園の安全を日々確認し、お子さんたちの過ごす環境に十分留意しています。誤飲・誤嚥となる危険な物が無いように、毎朝の保育室チェックも欠かさずおこなっています。保育士室清掃部分での改善が職員間からも出ていますので、そこを重点的に改善していきます。
14		各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	A	
15		施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	A	
16	健康・安全	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	A	嘱託医の健康診断や歯科検診を年2回実施し、尿検査等でお子さんの健康管理に留意しています。毎月の身体測定も行い、成長の確認をし、保護者にも報告しています。安全計画及びBCP計画、避難訓練計画を作成し、様々な災害を想定しての訓練を職員、お子さんと行付ています。警察と連携した不審者訓練、台風などを想定した風水害訓練等も行っています。アレルギーマニュアルに沿った対応で安心・安全な食事の提供も行っています。乳児の午睡中は、SIDSチェックを強化し、午睡の様子を触診・視診し、呼吸、顔色の確認を行っています。
17		定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している。	A	
18		子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる。	A	
19		保健(衛生管理・感染症対策等)に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
20		アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
21		家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる。	A	
22		乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる。	A	
23	教育・保育計画	全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている(職員の参画のもとに作成している)。	A	目指す保育方針を職員会議で定期的に共有しています。長期休みのお子さんの状況把握もできていますが、必要に応じて関係機関との連携体制も強化していきます 。
24		一人ひとりの子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	A	
25		長期欠席の子どもの状況把握をしている。	A	
26	教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている。	A	施設長研修等で保育所保育指針の理解を深めました。また、江東区園長会に参加し、配信のあった情報については園内で共有し振り返りを通じて職員の資質向上に努めています。保護者からの利用者アンケート結果は真摯に受け止めて改善に出来るところは改善に努めます。今後は園内研修の充実に取り組み職員同志の保育の学びあい等園内の保育の質の向上に努めていきます。
27		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を十分に理解し、向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	A	
28		社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている。	A	
29		教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができている。	B	
30		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている。	A	
31		保育者等の自己評価結果などに基づき施設長と職員での話し合いを実施している。	A	
32	幼保小連携	児童票・児童要録・幼保小連携計画などを作成している。	A	幼保小連絡会議に参加しスムーズな就学に向けての取り組みを連携校と一緒に活動をしました。また、保育要録を進学先に提出し小学校と情報共有を図っています 。また、支援の必要な子どもについては専門機関の助言を受けながら、園全体で支援方針を共有しています。今後は小学校との関わり合いも多く取り入れていきたいと考えています。
33		小学校進学するにあたっては小学校へ児童要録を送付、連絡会議等にも出席し、小学校との情報共有を図る。	B	
34		0･1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	A	
35	特別支援	記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関(地域の保健センター、臨床心理士等)の助言を受けている。	A	
36		子どもの様子で気になることは関係機関に報告している。	A	
37	保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭を関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	A	地域へ支援情報発信を行い、子育てに悩みを抱える家庭に必要なサポートが繋がりやすくなるよう努めていきます。また、日々の送迎時の対話や保育参観、個人面談などを通じ、保護者の方と子どもの成長を喜び合える良好な関係が築けています 。保護者アンケートの結果も踏まえ、今後も保護者の声に寄り添った丁寧な園運営を継続していきたいと考えています。
38		子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	A	
39		子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている。	A	
40		第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	A	
41		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている(アンケート・行事等)。	A	
42	健康・安全(事故防止)	安全計画(児童の安全を確保するための計画)を策定し、見直し・周知・訓練を含めて運用している。	A	安全計画の運用やヒヤリハット分析を行い事故防止に努めています 。苦情解決体制も整備・周知できていますが、ヒヤリハット事例から導き出した改善策の進捗確認をより徹底し、保育の安全性を高めていきます 。職員の自己評価をもとに改善事項を整理し、災害時の事業継続計画(BCP)や連絡体制の点検・訓練を定期的に実施していきます 。
43		事故・ヒヤリハットを分析し、再発防止策を具体化して改善の進捗を確認している。	A	
44	苦情解決・個人情報保護	苦情解決体制(受付・対応・記録・再発防止)を整備し、保護者へ周知して適切に運用している。	A	
45	第三者評価・自己評価の活用	自己評価結果を踏まえた改善計画を作成し、結果の公表(または保護者への説明)を行っている。	A	
46	防災・危機管理	災害時・感染症流行時等の事業継続(BCP)や連絡体制を整備し、定期的に点検している。	A	
考察		今年度の自己評価を通じ、高砂福祉会の理念に基づいた「子ども一人ひとりに寄り添う保育」「心の力」「体の力」「学ぶ力」が施設全体で概ね実践できていることを確認しました。特に保護者様との信頼関係構築においては良好な成果を感じています。一方で、職員間の学び合いや専門スキルの向上にはまだ伸びしろがあると考えています。次年度は、園内研修や公開保育をさらに充実させてチーム全体の保育の質を底上げするとともに、地域の子育て支援にも積極的に取り組み、より地域に愛され信頼される施設づくりを推進していきたいと考えています。		